



# 興 照 寺 報

平成25年7月

51号

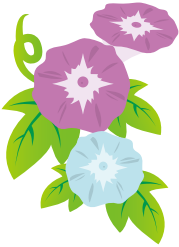


発行 浄土真宗 興 照 寺  
〒890-0045 鹿児島市武一丁目25番12号  
電話 **099-254-3269** (代)FAX 099-254-0303

吹上龍泉寺の親鸞聖人御幼少の像



一面 「いつやるのですか 今、でしよう。」  
二面 親鸞のいいたかったこと  
三面 春季彼岸・永代経法要のお話  
四面 秋季行事案内  
お盆のお願い 等



「いつやるのですか  
今、でしよう。」

今、流行のある予備校の講師の決め言葉であります。耳に残ると言う事はある意味で今の私たちに欠けている何かに訴えるものが有ると言う事なのでしよう。上の写真は親鸞聖人幼童のお像であります。まだ髪を結われ幼い面影を残しておられます。その後、聖人は御歳九歳の春、青蓮院で得度（出家）の式を受けられます。慌しい坊舎で式を延ばされようとした時、「明日ありと思う心のあだざくら、夜半に嵐の吹かぬものは」という歌を示され式を急がされたと伝えられています。無常の世の中日は知れぬ、今、唯今、救われていくお教えに遇いたい一心が偲べれます。その後、比叡山で二十年余のご苦勞をされ、自力修行が凡夫の身には成し難いものであると叡山を下りられ、法然上人のお教えをいただきお念仏の本願に帰依されるのです。また、蓮如上人は「仏法には明日と言うことは有るまじき候」と言われておられますが、お念仏は、唯々、「ナンマンダブ」助けるぞと今、聞いたまんま、そのまま丸抱えでお救いにお任せする信心であります。唯今「助けるぞ」と頂き、唯今「救わさせていただきます」お念仏させていただきます。 「いつやるのですか、今、でしよう」そのままお念仏にいかされると思います。

「何のためにこの世に生まれ、どこに向かってこの人生を生きようとしているのか」。人生のある時期、多くの人の心にこんな思いが去来するのではないだろうか。

私は、『親鸞のいいたかったこと』

(小山一行・田中教照 著 講談社発行)という一冊の本から多くの示唆を得ることができました。

表紙に『人間は如来に願われている存在である。この願いは十方衆生に向かつて起こされたものであるが、釈尊の教法を通じてその願いを聞く機縁にめぐまれたのは人間に生まれてきたが故である。この本願に遇うことこそ人間に生まれたことの意味であり、その願いを依り所として生きるところにすべての不安は喜びに転ぜられ、その願いの成就する場所として浄土がひらかれる。』と書かれています。『以下抜粋』

『確かに私たちは今、生きています。手足を動かす、ものを考え、呼吸をしている以上、「私が生きている」ということは自明のことであるように思える。しかし、よくよく考えてみれば、それは本当に「私が生きている」といえる事態なのだろうか。手をあげようと思えば、いつでもあげることがで

きる。足を動かそうと思えば動かすこともできる。だが、私たちは自分のいのちのはたらきの中心に近づけば近づくほど、自分の思いが及ばなくなることに気づいているだろうか。眠っている最中に、心臓を動かすのを忘れたら困る、と思つて、心臓を動かしながら寝る人はいない。読書に夢中になつて呼吸をすることを忘れたら死んでしまうからといつて、一生懸命に呼吸の数を確認しながら本を読む人もいない。私たちの心臓を動

## 親鸞のいいたかったこと

かし、呼吸をさせているのは、果たして本当に自分自身だといえるのだろうか。そう考えた時、私たちは自分のいのちというものが、ある種の不思議なものによつて支えられていることに気づくだろう。私たちが自身のいのちの根源は、決して自分の意志や意識によつて把握され得るものではない。限りあるいのちを抱えて苦悩する自己の背後に無量寿のいのちがあることに目覚めた親鸞は、これを阿弥陀仏とうけとめたのである。』

『人間であることの喜びの陰には、人間であるが故の深い悲しみが横たわっている。もしも人と生まれただことに幸いがあるとすれば、それはこの悲しみを知ることができた点にあるといわねばならない。なぜなら、おそらく他の動物には、生まれ出づることの悲しみも、死にゆくことへの不安もないだろうかである。悲しみも不安もないという点、それは一見幸いであるかのようにみえて、実は生存の意味を知ることのない漆黒の闇では

なからうか。人間は、人間であるが故に、苦悩の中をさまよっている。しかし、苦悩の中にあればこそ、この闇から抜け出して安らぎに至ろうとする問いが発せられるのである。とすれば、この苦悩にこそ、人と生まれたまことの喜びに至る扉が蔵されているのではなからうか。』『一生という長い時間を眺める視点に立った時、自分の人生全体が、果たしてそれほど明確であろうか。勉強するのは

進学のため、進学するのは就職のため、仕事をするのは収入のため、収入を得るのは生きてゆくため・・・だが、生きてゆくのはそもそも何のためだろうか。そして、私たちはこの人生の果てに、いったいどこへ行くこうとしているのだろうか。』『後世(後生)を祈る』という親鸞の心境を理解するのに、死後の世界の有無を議論するのは的外れである。生まれてから死ぬまでの人生しか考えていなかっただけに、人生そのものを眺める視点を教えるのが「後世(後生)」ということである。それは、いかにして生きることかという手段や方法ではなく、生きることの意味と方向を問うことである。』『親鸞がいいたかったのは、生まれてから死ぬまでの間でいかにその日その日を意義あるものにしたとしても、生から死へと向かう人生それ自体に確固たる意味が見出せなければ、この人生は果てしない迷いの海でしかないということである。どんなに困難なことであっても、その向こうに明確な目標が見えてさえいれば、むなしさを感じるといふことはあるまい。』『二度とないこの人生を、むなしく過ごさないために。』

## 春季彼岸法要

講師 筑波 英道 先生

ご讚題に「阿弥陀仏のむかし、法蔵比丘たりし時、衆生仏にならずんば、我も正覺成らじ」と誓います時、その正覺すでに成就たまいすがたこそ、いまの、南無阿弥陀仏なりとこころうべし、されば、南無阿弥陀仏と申す体は、我が往生の定まりたる証拠なり」といただかれ、お取次ぎをいただきました。

今まで生きてこられて永かったですか？”あつ”言う間だったでしょう。皆さん、いつまで生きるつもりですか？今までが”あつ”言う間だったのならこの先は”あつ”言う間もない、そう言う事ではありませんか？いのち終わるその時に、「人間に生まれさせていたのだおかげで、本当に出会わなければ、本当に聞かねばならないことに出合わせさせていただき、聞かせていただきました。」「今いのちが終わろうとも私の人生は空しい人生ではありませんでした、すばらしい人生でした。」と、終わっていききたい。それは仏様の願いでありそんな仏様のお話を聞かしていただくと言う事が我々に肝要であります。蓮如上人は、「仏法には、世間のひまを闕きてきくべし。世間のひまをあけて、法を聞

くべきように思う事、あさましきことなり。仏法には、明日と云う事はあるまじき」と仰せられご聴聞の大事さを示し論されておられます。さて、ご讚題にありますように阿弥陀様は、あなたを救う大丈夫なものを仕上げておいたからまかせてくれよと、わたしのいのちに分け入って働いていてくださっています。お念仏をいただくことは、仏様に成るはずのない、地獄に墮ちるしかない私が仏様に生まれさせていただく、その大きな働きの中に今、生かされてあるという事です。死んでつもらん人生じゃない、あなたは我が国に生まれると思つて生きて下さい。すばらしい世界を仕上げておられますから、今を安心して生きて下さいと、今生きてよし、いのち終わつてもまたよしと、生死を貫いて私に働いて下さつてありますこのお念仏に遇わせて頂く事が信心をいただくすがたなのですとお勧めいただきます、その上でせめてわが耳に聞こえるほどにお念仏をしていただきお念仏を相続していききたいのであります。



## 春季永代経法要

講師 黒田 了智 先生

正信偈和讃の一つに「智慧の光明はかりなし有量の諸相ごとく光暁かむらぬものはなし 真実明に帰命せよ」とあります。阿弥陀様の智慧の光は量ることのできない、比べることのできないものであるということです。これは仏様の光の範囲、距離の無限を表わしています。



仏様の智慧は「無分別智」と言われます。我々は自分にとって都合の良い悪いと言う物差しでいろんな事を判断分別しているのではないのでしょうか。しかし、この物差しは加減で長くなったり短くなったりします。長さの変わる物差しで物事を判断すると言うことは暗闇を手探りで行くのと同じです。我々はそのような世渡りをしているのです。その様な我々を気付けかけてくださるのが仏様の光です。

仏様の光に際限があるとすれば、それを外れた人は救われないうち、全ての人が救われることを示す言葉が「智慧の光明はかりなし」という言葉です。そのような量ることのできない（無量）の仏様に対して、我々は物事を量り（有量）、比べることによって生きています。そのような我々のいる世界を仏様の光明の世界に対して無明の世界と言います。我々が物事を比べ生きていくのがこの無明の闇を生んでいるのであり、迷いの始まりなのです。比べる事を知恵と思つておられる方も多いかと思つています。「分別」という言葉があります。物を分けるときに「ぶんべつ」と読みますが、「ふんべつ」という読み方もあります。「分別がある」と言うことは良い意味で使われますが、

あるお宅に行つた時、そこのご主人が息子さんに「時にはお寺へ言つてあげたいお話を聞いてちゃんとしろ。」と言つておられました。しかし、そのご主人は一度も寺へ来られた事の無い方でした。そのご主人は「私は間違つていない・私は大丈夫」と思つておられるのでしよう。しかし、本当に迷つておられる方は自分が迷つておることを知つていません。その迷いの中から早く目覚めてくれ、氣付いてくれよとの喚び声が「南無阿弥陀仏」であります。「われとなえ われ聞くなれど 南無阿弥陀 づれてゆくぞの 親の喚び声」（原口針水）「喚ぶ」の字は遠くから呼ぶのではなく、呼ぶ人が呼ばれる人の所まで行つて耳元で言うことです。仏様は私の耳元でよびかけてくださっています。

### 秋季彼岸会法要のご案内

・期日 (〇のある日時にあります)	九月	午前	午後
	二十日(金)	〇	〇
	二十一日(土)	〇	吹上
	二十二日(日)	吹上	
	二十三日(月)	〇	〇
お中日			

### 秋季永代経法要のご案内

- ・時間 午前十時より  
午後二時より
- ・講師 山下 信順先生(福岡県)
- ・期日 十月 十九日(土)  
二十日(日)
- ・時間 朝席十時より  
昼席二時より
- ・講師 北川 顕正先生(熊本県)

### 永代経について

浄土真宗のみ教えが「子々孫々永代にわたって伝えられてゆくように」という願いを込めて営まれるのが永代経法要です。み教えを伝えて下さったご先祖の遺徳を偲び、何より私自身が開法に励んで、慶びを子孫に伝えていく。これが永代経法要の大きな意義です。

※永代経志納のお勤めは、二十日昼席に行います。まだ永代経をあげておられない方は、寺へお問い合わせください。

### 六月燈のお知らせ

七月二十七日(土)  
例年通り踊りの奉納があります。雨天等で屋外での催しが出来ない時は本堂内で行います。皆さんのお出かけをお待ちしています。



### 報恩講のご案内

- ・日 十一月二十四日(日)
- ・時間 朝九時半より と  
昼席二時より
- ・講師 藤岡 孝教先生(熊本県)
- ・午前法の法要終了後午後一時半まで、お斎(精進料理)があります。

### 追弔法要のご案内

昨年十一月から今年十月までに亡くなられた方々の追弔の法要を左記の通り行います。

- ・日 十一月二十四日(日)
- ・時間 午前十一時半より

### 「和順会」払戻しのご案内

満会となります和順会の払戻しを八月一日(木)に行います。会員の皆様には改めてご通知いたします。

### 「和順会」会員募集のお願い

当寺には「和順会」という五十年を超える長い歴史をもつご門徒の方々の会があり、八月より新年度が始まります。できる限り多くの方に入会していただき寺に親しんでいただきますようご案内いたします。

詳しくは寺へお問い合わせください。

### 納骨堂募 集



古い納骨堂にも空きが出ました。ご希望の方が居られましたらご連絡ください。

納骨壇の将来の継承を心配されていらっしゃる方は、寺が責任を持つ特別継承の制度があります。ご相談ください。

### お盆中の納骨堂のお参りについて

八月の十三日より十五日までは閉館時間を午後九時にいたします。午前九時半頃より午後二時頃までは寺での法要と重なりますので、車での参りは避けられた方が良いでしょう。また、長時間の駐車も遠慮下さい。

### 盆参りについて

本年も門徒会費納入時にお聞きしましたご希望をもとに盆参りをいたします。初盆や寺での読経を希望された方にはその日時などを書いたものを同封してありますのでお読み下さい。

※寺での一般の盆参りの時間が昨年と違います。ご注意ください。

また、ご自宅への盆参りを希望された方は、ほぼ例年と同じ日にお参りする予定ですが時間はお約束できませんのでご了承ください。

### 門徒会費・納骨堂管理費納入のお願い

今年度門徒会費等が未納の方がおられます。ご確認のうえ、納入をお願いいたします。

### 寺役員人事報告(順不同・敬称略)

- ・総代退任 大山禎一郎
- ・総代再任 井之上忠雄
- 井ノ上英記・原園三郎
- ・総代新任 永田静一郎
- 川井田學・有村 忠・有馬純博

### あ と が き

雨の少ない年かと思っていまして降りましたら大雨の所もあるようです。何事も偏りすぎないのが良いようです。